

第8節 家庭

第1 本指導実践事例の活用について

1 作成の基本的な考え方

- (1) 小学校学習指導要領、埼玉県小学校教育課程編成要領、同指導・評価資料の趣旨を踏まえる。
- (2) 小学校学習指導要領における家庭科の目標は、

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- (2) 日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。
- (3) 家庭生活を大切にする心情を育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。

である。指導に当たっては、各内容の各項目の指導の順序を工夫し、各指導事項ア、イとの関連を図って題材を構成し、2学年間を見通して適切に配列して、効果的な学習指導ができるよう年間指導計画を作成するようにする。資質・能力の育成に当たっては、児童が一連の学習過程の中で「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせ、質の高い深い学びを実現させることができるよう、教師の働きかけや指導の工夫をすることが考えられる。また、問題解決的な学習の過程で見方・考え方に係るキーワードを課題の中に位置付け、児童がその視点から検討や議論等ができるようにしたり、学習の過程で児童たちから課題に対して表出してくる様々な「見方・考え方」を基に学習を進めたりすることができるよう、本資料を参考としていただきたい。

2 指導計画作成の留意事項

[編成要領](#)（編 P122）で示された「指導計画作成に当たっての留意すべき事項」との関連についても本資料で示していく。

- (1) 「特別な配慮を必要とするなど課題を抱えた児童への指導」の視点
- (2) 「主体的・対話的で深い学び」の視点
- (3) 「教科等横断的」な視点
- (4) 「社会に開かれた教育課程」の視点
- (5) 「道徳教育の充実」の視点
- (6) 各項目に配当する授業時数及び各項目の履修学年
- (7) 「A家族・家庭生活」の(4)の指導
- (8) 段階的な題材の配列
- (9) 題材の構成

掲載事例

- 【事例1】思考ツールやワークシートなどの活用を工夫し、学ぶ意欲を高めるガイダンスの事例
- 【事例2】ICT端末を活用して「地域の人々との関わり」を見える化し、考えを広げ深める事例
- 【事例3】栄養のバランスを考えた食事について、対話的な学びを通し、課題解決に向けて工夫する事例
- 【事例4】実践的・体験的な活動を効果的に取り入れ、実感を伴った理解へと結び付ける事例
- 【事例5】題材を通して見方・考え方を働かせ、内容CとBの関連を図った授業展開の事例

3 活用に当たっての配慮事項

- 本資料で取り上げた実践事例は、指導及び評価の一例である。本資料を参考にし、各学校の実態に応じて、指導計画を工夫し、その特性を生かした指導を行っていただきたい。
- 各学校においては、児童の家庭生活の状況、生活経験の有無などにより、児童の生活に対する興味・関心、学習意欲、思考の仕方、身に付いている知識や技能などは様々であることから、内容に関する児童の実態を的確に捉え、学校、地域における行事等との関連を図るなど、より身近な題材を設定するよう配慮する。
- 各内容の各項目に配当する授業時数及び各項目の履修学年については、児童や学校、地域の実態等を考慮し、各学校において適切な授業時数を配当するとともに、2学年間を見通して履修学年や指導内容を適切に配列することが大切である。